

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年8月11日
【四半期会計期間】	第78期第1四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
【会社名】	積水樹脂株式会社
【英訳名】	Sekisui Jushi Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 福井 彌一郎
【本店の所在の場所】	大阪市北区西天満二丁目4番4号
【電話番号】	06（6365）3204
【事務連絡者氏名】	経理部長 菊池 友幸
【最寄りの連絡場所】	東京都港区海岸一丁目11番1号
【電話番号】	03（5400）1801
【事務連絡者氏名】	東京総務部長代理 鎌内 克幸
【縦覧に供する場所】	積水樹脂株式会社東京本社 （東京都港区海岸一丁目11番1号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

（注） は金融商品取引法の規定による縦覧に供すべき場所ではないが、株主等の縦覧の便宜のために備えるものである。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第77期 第1四半期連結 累計期間	第78期 第1四半期連結 累計期間	第77期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 6月30日	自平成23年 4月1日 至平成23年 6月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高(百万円)	12,360	13,166	57,990
経常利益(百万円)	1,477	1,591	8,424
四半期(当期)純利益(百万円)	795	833	4,562
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	521	990	4,186
純資産額(百万円)	53,497	57,268	56,820
総資産額(百万円)	76,345	81,022	84,002
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	17.92	18.76	102.68
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	69.4	69.9	67.0
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	170	152	6,606
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,908	491	4,436
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	591	1,408	796
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	17,055	18,661	20,696

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2. 売上高には、消費税等は含まれていない。

3. 第77期第1四半期連結累計期間及び第77期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していない。

4. 第78期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

5. 第77期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理している。

6. 当社は四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成している。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)の産業・生活関連事業に自動車部品及び金型の製造・加工・販売を新たに加えている。

当第1四半期連結累計期間における主要な関係会社の異動は次のとおりである。

(産業・生活関連事業)

(製造・加工・販売) 連結子会社の追加：セキスイジュシ(タイランド)Co., Ltd.

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはない。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はない。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結累計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はない。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間のわが国経済は、東日本大震災によるサプライチェーンの寸断や原子力発電所の事故に伴う全国的な電力供給不安のほか、原材料価格の高騰などにより極めて厳しい状況で推移した。

このような経営環境下において、当社グループは、中期経営計画「JEX-2013 (Jushi-Expansion2013)」の2年目となる今年度を、目標達成のための重要な年度と位置づけ、連結業績拡大に向けて事業本部の新体制をスタートさせたほか、グローバル戦略の一環として、東南アジアでの拠点確立とアジア新興国への事業領域の拡大をはかるべく、タイ王国にて事業会社を買収し、7月1日よりセキスイジユシ(タイランド)Co.,Ltd.として事業活動を開始した。

また、当社グループは、東日本復興プロジェクトを発足し、被災地の復旧・復興における、新たな都市計画に向けた、ランドデザインの立案段階からの協力を行うなど、社会貢献に取り組んでいる。

当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は131億6千6百万円(前年同期比6.5%増)、営業利益は15億5千5百万円(前年同期比11.4%増)、経常利益は15億9千1百万円(前年同期比7.8%増)、四半期純利益は8億3千3百万円(前年同期比4.8%増)となった。

セグメントの業績は次のとおりである。

都市環境関連事業

防音壁は、アルミ枠透明板が第二東名自動車道路に採用され大幅な売上増となったほか、交通安全製品は、視認性に優れた太陽電池式LED表示板「オプトマーカー」や車線分離標「ポールコーン」が交通事故防止に貢献する製品として高く評価され、大きく売上を伸ばした。人工芝は、耐久性・安全性に優れた「ドリームターフ」がサッカー場や学校グラウンドなどに採用され好調に推移した。また、人工木材「スーパーオレンジウッド」は、耐久性、耐候性が評価され大手建材メーカー向けに順調な伸びを示した。この結果、都市環境関連事業の売上高は37億6千4百万円(前年同期比7.7%増)、営業利益は5億3千5百万円(前年同期比8.0%増)となった。

街路・住建関連事業

歩行者用防護柵や高欄は、公共事業予算縮減の影響により前年同期を下回る成績に終わった。メッシュフェンスは、外構工事の増加を背景に好調に推移した。めかくし塀は、プライバシー保護機能に通風機能を付加した製品が評価され大きく売上を伸ばした。メタカラー建材は、外装やサインなどへの新規用途開拓により売上伸長した。また、アルミ樹脂複合板は、防音パネル「ビルガード」が軽量性・耐久性を評価されたことにより順調な成績を収めた。この結果、街路・住建関連事業の売上高は46億5千6百万円(前年同期比3.0%増)、営業利益は6億5百万円(前年同期比0.6%増)となった。

産業・生活関連事業

包材関連製品は、柔らかく減容性の機能を持つ「ゆうバンド」が青果物・食品業界から評価され順調に推移したほか、ストレッチフィルムも大幅な伸びを示した。デジタルピッキングシステム製品は、大手食品メーカー向けに採用され売上伸長した。また、組立システムパイプ製品は、介護福祉施設などの新規分野への積極的な販路拡大を行ったが、自動車関連分野での販売低迷により前年同期並みの成績となった。生活関連製品は、「室内ものほし」が部屋干し需要の増加により大幅に売上を伸ばした。緑関連製品は、農園芸用支柱がホームセンター等への積極的な提案営業により前年同期を上回る成績を収めた。この結果、産業・生活関連事業の売上高は47億3千7百万円(前年同期比9.2%増)、営業利益は5億9千5百万円(前年同期比18.1%増)となった。

その他事業

保険手数料収入の増加により、売上高は7百万円（前年同期比12.1%増）、営業利益は4百万円（前年同期比43.2%増）となった。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ20億3千5百万円減少（9.8%減）し、186億6千1百万円となった。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりである。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

税金等調整前四半期純利益15億7千9百万円に加え、売上債権の減少等による資金増加の一方、棚卸資産の増加や仕入債務の減少、法人税等の支払を行ったこと等により、営業活動によるキャッシュ・フローは1億5千2百万円の支出となった（前年同期は1億7千万円の収入）。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資有価証券の取得や、新たに子会社を獲得したこと等により、投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比較して14億1千7百万円減少し、4億9千1百万円の支出となった。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

短期借入金の減少や配当金の支払い等により、財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同期と比較して8億1千7百万円増加し、14億8百万円の支出となった。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はない。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は2億6千9百万円である。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はない。

(5) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、自動車部品及び金型の製造・加工・販売を営むダイブラシステック（タイランド）Co.,Ltd.（現セキスイジユシ（タイランド）Co.,Ltd.）を平成23年6月に買収したこと等により、産業・生活関連事業の従業員数が前連結会計年度末から224名増加して615名となり、連結会社の従業員数は前連結会計年度末から209名増加して1,440名となった。

なお、従業員数は就業人員数である。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	128,380,000
計	128,380,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年8月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	47,313,598	47,313,598	東京証券取引所 (市場第一部) 大阪証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 1,000株
計	47,313,598	47,313,598	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はない。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はない。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はない。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高 (百万円)
平成23年4月1日 ~平成23年6月30日	-	47,313,598	-	12,334	-	13,119

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしている。

【発行済株式】

平成23年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,801,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 44,222,000	44,222	-
単元未満株式	普通株式 290,598	-	-
発行済株式総数	47,313,598	-	-
総株主の議決権	-	44,222	-

【自己株式等】

平成23年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
積水樹脂株式会社	大阪市北区西天満 二丁目4番4号	2,801,000	-	2,801,000	5.92
計	-	2,801,000	-	2,801,000	5.92

2【役員の状況】

該当事項はない。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成している。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成している。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、大手前監査法人による四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	22,696	20,661
受取手形及び売掛金	24,241	21,633
商品及び製品	2,752	2,856
仕掛品	783	1,109
原材料及び貯蔵品	2,431	2,728
その他	2,854	2,998
貸倒引当金	52	56
流動資産合計	55,707	51,932
固定資産		
有形固定資産	16,184	16,750
無形固定資産	123	135
投資その他の資産		
投資有価証券	7,829	8,157
その他	4,352	4,238
貸倒引当金	193	192
投資その他の資産合計	11,987	12,203
固定資産合計	28,295	29,090
資産合計	84,002	81,022
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	14,202	13,082
短期借入金	2,290	2,250
引当金	753	457
その他	6,118	4,244
流動負債合計	23,364	20,034
固定負債		
退職給付引当金	3,443	3,444
役員退職慰労引当金	18	20
その他	355	255
固定負債合計	3,817	3,719
負債合計	27,182	23,753

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	12,334	12,334
資本剰余金	13,187	13,187
利益剰余金	33,102	33,358
自己株式	1,933	1,933
株主資本合計	56,691	56,946
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	254	296
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	681	586
その他の包括利益累計額合計	427	290
少数株主持分	555	612
純資産合計	56,820	57,268
負債純資産合計	84,002	81,022

(2) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【 四半期連結損益計算書】

【 第 1 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 6 月30日)
売上高	12,360	13,166
売上原価	8,503	9,207
売上総利益	3,856	3,958
販売費及び一般管理費	2,459	2,402
営業利益	1,397	1,555
営業外収益		
受取配当金	77	62
その他	79	47
営業外収益合計	156	109
営業外費用		
支払利息	46	48
その他	29	24
営業外費用合計	76	73
経常利益	1,477	1,591
特別利益		
負ののれん発生益	23	-
特別利益合計	23	-
特別損失		
投資有価証券評価損	-	10
固定資産除売却損	7	2
特別損失合計	7	12
税金等調整前四半期純利益	1,492	1,579
法人税等	679	725
少数株主損益調整前四半期純利益	813	853
少数株主利益	17	19
四半期純利益	795	833

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	813	853
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	245	40
繰延ヘッジ損益	0	0
為替換算調整勘定	46	94
持分法適用会社に対する持分相当額	1	0
その他の包括利益合計	291	137
四半期包括利益	521	990
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	504	970
少数株主に係る四半期包括利益	17	19

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,492	1,579
減価償却費	325	286
賞与引当金の増減額(は減少)	260	234
負ののれん発生益	23	-
売上債権の増減額(は増加)	4,434	2,762
たな卸資産の増減額(は増加)	474	553
仕入債務の増減額(は減少)	1,802	1,195
その他	1,043	593
小計	2,648	2,051
利息及び配当金の受取額	88	77
利息の支払額	45	47
法人税等の支払額	2,521	2,234
営業活動によるキャッシュ・フロー	170	152
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	175	104
投資有価証券の取得による支出	1,501	301
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	195
連結子会社株式の追加取得による支出	34	-
短期貸付金の増減額(は増加)	200	100
その他	2	10
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,908	491
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	49	801
配当金の支払額	534	600
その他	7	7
財務活動によるキャッシュ・フロー	591	1,408
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	17
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,340	2,035
現金及び現金同等物の期首残高	19,395	20,696
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,055	18,661

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	
連結の範囲の重要な変更 当第1四半期連結会計期間より、ダイブラシステック(タイランド)Co.,Ltd.(セキスイジュシ(タイランド)Co.,Ltd.に商号変更)を買収したことにより、連結の範囲に含めている。	

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	
税金費用の計算	税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算している。

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用している。	

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に記載されている科目の金額との関係 現金及び現金同等物の四半期末残高と、四半期連結貸借対照表に記載されている現金及び預金勘定の残高とは一致している。	現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に記載されている科目の金額との関係 (平成23年6月30日現在) 現金及び預金勘定 20,661百万円 預入期間が3か月を超える定期預金 2,000 現金及び現金同等物 18,661

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年4月28日 取締役会	普通株式	534	12	平成22年3月31日	平成22年6月8日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年4月28日 取締役会	普通株式	578	13	平成23年3月31日	平成23年6月8日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	都市環境 関連事業	街路・住建 関連事業	産業・生活 関連事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,495	4,520	4,337	12,353	6	12,360
セグメント間の内部売上 高又は振替高	0	1	31	32	3	36
計	3,495	4,521	4,368	12,386	10	12,396
セグメント利益	496	601	504	1,602	2	1,605

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業等を含んでいる。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,602
「その他」の区分の利益	2
全社費用(注)	208
四半期連結損益計算書の営業利益	1,397

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費並びに開発試験研究費の一部である。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はない。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はない。

(重要な負ののれん発生益)

街路・住建関連事業セグメントを主なセグメントとする当社連結子会社である積水樹脂プラメタル(株)の株式を当第1四半期連結累計期間において追加取得した。

なお、当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては23百万円である。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	都市環境 関連事業	街路・住建 関連事業	産業・生活 関連事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	3,764	4,656	4,737	13,158	7	13,166
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	0	59	60	3	63
計	3,764	4,657	4,797	13,218	10	13,229
セグメント利益	535	605	595	1,737	4	1,741

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険代理業等を含んでいる。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,737
「その他」の区分の利益	4
全社費用(注)	185
四半期連結損益計算書の営業利益	1,555

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費並びに開発試験研究費の一部である。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はない。

(のれんの金額の重要な変動)

重要性がないため記載を省略している。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はない。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	17円92銭	18円76銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	795	833
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	795	833
普通株式の期中平均株式数(千株)	44,428	44,452

- (注) 1. 前第1四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していない。
2. 当第1四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項はない。

2【その他】

平成23年4月28日開催の取締役会において、次のとおり剰余金の配当を行うことを決議した。

- (イ) 配当金の総額.....578百万円
(ロ) 1株当たりの金額.....13円00銭
(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成23年6月8日

(注) 平成23年3月31日現在の株主名簿に記載された株主に対し、支払いを行っている。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年 8月10日

積水樹脂株式会社
取締役会 御中

大手前監査法人

指定社員 業務執行社員	公認会計士	後藤 芳朗	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	古谷 一郎	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	江本 律子	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている積水樹脂株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、積水樹脂株式会社及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていない。